

さぬき市教育事務点検評価委員会（第1回） 会議要旨

- 1 日 時 令和5年7月5日（水） 14：57～16：57
- 2 場 所 さぬき市寒川第2庁舎203会議室
- 3 出席者 【委員】三井重彰 渡邊千栄美 多田照代
 【事務局】和田教育長 佐藤教育部長 安倍教育総務課長
 高西学校教育課長 細川生涯学習課長
 酒井幼保こども園課長 山田人権推進課長
 学校教育課長田主幹 多田教育総務課課長補佐

傍聴者 1名

- 4 議 題 (1) 教育委員会の事務の点検及び評価制度の趣旨等について
 (2) 教育委員会の事務の点検及び評価報告書の内容について
 (3) 質疑
 (4) その他 等

5 会議の内容

発言者	意見概要
教育部長	<p>それでは、ただ今から、第1回教育委員会事務点検評価委員会を開会します。会議の公開について、本日は傍聴人が1名となっていますので、その旨を報告します。なお、会議要旨については、会議後にホームページで公表することとしていますので、申し添えます。</p> <p>それでは、次第に沿いまして、教育長から御挨拶を申し上げます。</p>
教育長	<p>(教育長挨拶)</p>
教育部長	<p>それでは、次第3「教育委員会の事務の点検及び評価制度」の趣旨等について、お手元の素案に基づき、事務局から説明します。</p> <p>なお、事前にいただいている質問については、次第4の内容説明が終わった後に回答します。また、追加の質問、御意見等がありましたら、その後にお受けしますので、よろしくお願いいたします。</p>
教育総務課長	<p>(事務の点検及び評価制度の趣旨等について説明した。)</p>
教育部長	<p>次に、次第4「事務の点検及び評価報告書の内容」について、各担当課長からページを追って順に説明します。内容にボリュームがありますので、説明は、特に重要と思われる項目や、前年度から変更があった点を中心に要点を申し上げます。</p>
各課長	<p>(各施策の評価並びに成果、課題及び課題への対応について説明した。)</p>
教育総務課長	<p>(教育振興基本計画に基づく施策の点検・評価結果について、教育委員会の活動状況、資料について説明した。)</p>
教育部長	<p>資料の説明は、以上です。続いて、事前にいただいている質問の回答について、担当課長から説明をします。</p>
関係課長	<p>(事前の質問に対する回答について説明した。)</p>

教育部長	<p>それでは、質疑に移りますので、質問、御意見等がありましたら、お願いします。</p>
委員	<p>総合的にみると評価については、やや過小評価の傾向にあると思います。当然、妥当な評価の施策もあります。最終的には、教育委員会の判断に任せますが、計画の最終年度でもありますので、施策の目標達成に向け順調に推移し、目標が達成できている個別の「施策の内容」については、評価を「S」としてもよいのではないかと思います。</p> <p>また、13・31・32ページのように、「具体的な推進策」で「実情を踏まえた内容に変更した、追加した」のように弾力的な対応をしていることは、特に評価できます。変動の時代にあって、今後も教育内容や社会の変化、問題の多様化が予想されるので、評価についても柔軟に対応する必要があると思われまます。</p> <p>学校教育の現状において、特に気になるのは学力の二極化と不登校の児童生徒の漸増です。学力の二極化の背景には、家庭環境も大きく影響していると思われまます。学校では、少人数指導や個別支援により学力の二極化の是正に向けて取り組んでいますが、かなり以前より、さぬき市だけでなく県や全国的な傾向として顕現化していることは広く知られるところです。</p> <p>ここで不安に感じることは、この学力の二極化現象と不登校の児童生徒の漸増傾向が同時に生じていることであり、この二つの傾向には関連性があるかも知れないと思われることです。もちろん、現実問題として、不登校の数がゼロになることもないでしょうし、いじめが生じないこともないと思われまます。</p> <p>ただ、学力の二極化現象と不登校の漸増現象は水面下で関連があり、生徒指導上の学校の荒れの前兆のような気がしますので、問題化しないように十分に配慮する必要があると思います。</p> <p>細かいことですが、基本的なこととして「在り方（あり方）」「手引（手引き）」等、用語の統一について配慮したいものです。</p> <p>最後になりましたが、総じて安定した教育施策が展開されていたと評価できます。</p>
委員	<p>就学前教育保育施設への芸術士派遣事業については、今までも同じような事業を実施していたと思いますが、芸術士とともに保育者が保育活動を行うということなので、保育者の資質向上のために今後も続けてほしいと思います。</p> <p>また、子どもの数は年々減っています。それに対し、保育所、幼稚園、こども園の施設数は、以前に比べて増えています。子どもの取り合いになっていないか心配です。子どもの数が減っても、施設が共存できるよう、大まかな再編計画を考えるべきだと思います。</p>
教育長	<p>就学前教育保育施設の再編については、難しい問題の一つです。国の子育て支援の施策が大きく影響しているのか、幼稚園の園児数は、どんどん減っ</p>

委員	<p>ています。幼稚園教育の本質について、もっとアピールする必要があると思います。</p> <p>施設の共存についてですが、民間の施設もたくさんありますので、公の施設とのバランスを考慮する必要があると考えます。</p> <p>4月からは、子ども家庭庁が発足しました。国も子どもに力を入れている時に、さぬき市は、児童館を減らすという方向。もう少し、幼児教育について、考えていただきたいと思います。特に、幼稚園教育についてです。幼稚園教育要領に基づいたしっかりとした幼稚園教育を提供し、幼稚園教育の大切さをアピールしていく必要があります。</p>
教育長	<p>幼稚園教育の良さは、私も理解しています。幼稚園の先生方も、様々な方法で、幼稚園の良さを発信し、頑張っています。一方で、国は、保育所の入所の条件を緩和する方向であり、保護者が保育所を選択する傾向がますます高くなることが予想されます。そういった中で、今後、幼稚園をどうするかについて、市としての方針を出していく必要があると考えます。</p>
委員	<p>時間外勤務が月に80時間以上の教職員は、すべて中学校の先生ということですが、やはり部活動の指導が大変だということで納得しました。働き方改革のためにも、部活動の地域移行について、円滑に進めて行ってほしいと思います。</p> <p>特別な支援や配慮が必要な子どもが増えていますが、それに対して、市教育委員会は、真摯に対応していると思います。</p> <p>長尾の公民館、長尾小学校は、新しくなるのに、長尾中学校は、古いままです。今後、長尾中学校の新しい校舎の建築計画についても考えていただきたいと思います。</p>
委員	<p>教職員の時間外労働時間についてです。部活動の指導が影響しているということですが、その指導を進んで行っている教員もいると思われれます。自分が苦にしている仕事の時間外勤務と自分にとってやりがいのある仕事の時間外勤務は、同じ時間でも大きく異なります。やりがいのある時間外勤務は、苦にならないと考える先生もいると思われれますが、そういった自分から進んで行っている時間外勤務は、この調査に含まれているのでしょうか。</p>
学校教育課 主幹	<p>基本的には、在校時間となっていますので、含まれているものもあるかもしれません。しかし、学校外で自己研鑽のために自主的に行っているものは含まれていないと思います。</p>
委員	<p>特別な支援や配慮が必要な子どもが増えているとのことですが、発達障害と診断される子どもが増えているのではないかと思います。これは、医療の</p>

委員	<p>進歩により過剰な診断がなされている可能性があることも影響しているのかもしれない。ちなみに、発達障害と診断された子どもの約半数は、普通の成人として社会生活を営むことができているという報告（米国）があります。</p> <p>北海道剣淵町との交流事業ですが、剣淵小学校の児童数が減っています。交流の意味や交流の方法が問われていると思います。</p> <p>公民館での親子教室が少ないように思います。書道、絵画、ダンス等、様々な内容に取り組みばよいと思います。市内には、それぞれの分野において講師もたくさんいらっしゃいます。</p> <p>今後の課題にしていきたいと思います。</p>
生涯学習課長	<p>検討させていただきます。</p>
教育部長	<p>貴重な意見をありがとうございました。それでは、その他に移ります。今後のスケジュールについてお願いします。</p>
教育総務課長	<p>今後、本日の意見等と委員の皆さんからの意見書を反映しまして、原案を作成し、その後、8月17日の第2回の会議を経て、8月に開催の教育委員会定例会に議案として提出し、教育委員からも意見をいただく予定としています。</p> <p>なお、御質問、御意見等は、会議後も事務局の方で受付していますので、よろしくお願いします。</p>
教育部長	<p>それでは、以上をもちまして、第1回教育事務点検評価委員会を閉会します。長時間にわたり御審議いただき、ありがとうございました。</p>